登録番号　２６－②

プランニング・コンセプト

飯田城下町の歴史に裏打ちされた軸線で３つの拠点を結ぶ。

飯田都市機能軸

本町通りを都市機能軸と定め、中心的に修景を進める。この都市軸は、業務・商業・伝統文化の３つの拠点を貫通し、中心的な回遊動線にもなりうる。

①業務中心エリア

合同庁舎移転を皮切りに、業務機能を纏めます。

②商業中心エリア

商業機能を纏め、まちなか居住を推進します。

③伝統文化エリア

本丸の風格を受け継ぎ、美術館や資料館を纏めます。

④緑のネットワーク

中心市街地を囲むように緑を配置します。

フリンジパーキング　纏

まちなかに点在する駐車場をフリンジに集約化する。フリンジパーキングにはカーシェアのポートも付ける。

中距離バスターミナル　繋

南信州の玄関口として、各地へ向かう中距離バスのターミナルを整備する。

宿街の形成　紡　纏

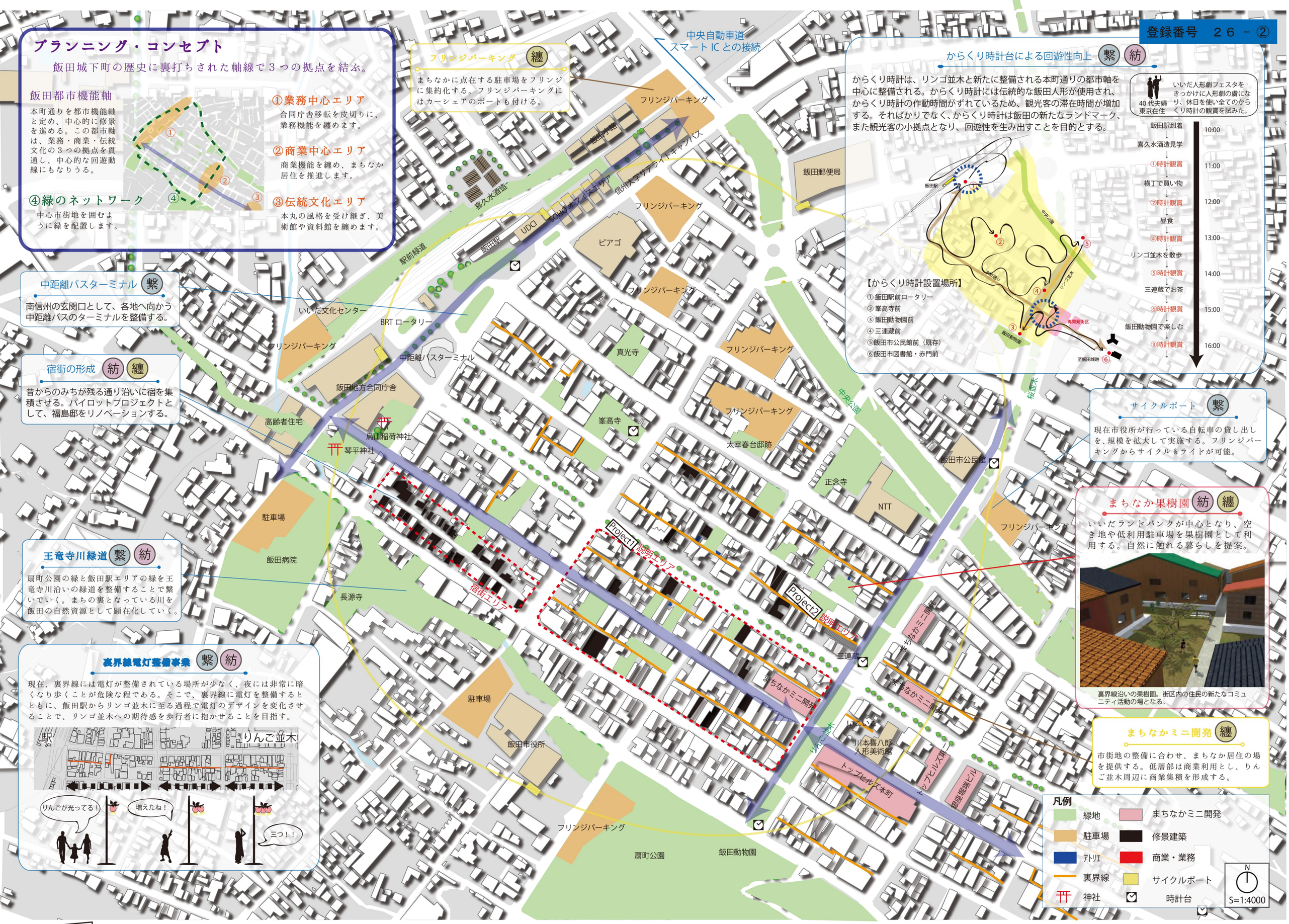
昔からのみちが残る通り沿いに宿を集積させる。パイロットプロジェクトとして、福島邸をリノベーションする。

王竜寺川緑道　繋　紡

扇町公園の緑と飯田駅エリアの緑を王竜寺川沿いの緑道を整備することで繋いでいく。まちの裏となっている川を飯田の自然資源として顕在化していく。

裏界線電灯整備事業　繋　紡

現在、裏界線には電灯が整備されている場所が少なく、夜には非常に暗くなり歩くことが危険な程である。そこで、裏界線に電灯を整備するとともに、飯田駅からリンゴ並木に至る過程で電灯のデザインを変化させることで、リンゴ並木への期待感を歩行者に抱かせることを目指す。



からくり時計台による回遊性向上　繋　紡

からくり時計は、リンゴ並木と新たに整備される本町通りの都市軸を中心に整備される。からくり時計には伝統的な飯田人形が使用され、からくり時計の作動時間がずれているため、観光客の滞在時間が増加する。そればかりでなく、からくり時計は飯田の新たなランドマーク、また観光客の小拠点となり、回遊性を生み出すことを目的とする。

40代夫婦　東京在住

いいだ人形劇フェスタをきっかけに人形劇の虜になり、休日を使い全てのからくり時計の観賞を試みた。

【からくり時計設置場所】

① 飯田駅前ロータリー
② 峯高寺前
③ 飯田動物園前
④ 三連蔵前
⑤ 飯田市公民館前（既存）
⑥ 飯田市図書館・赤門前

飯田駅到着	10:00
喜久水酒造見学	
①時計観賞	11:00
横丁で買い物	
②時計観賞	12:00
昼食	
④時計観賞	13:00
リンゴ並木を散歩	
⑤時計観賞	14:00
三連蔵でお茶	
⑥時計観賞	15:00
飯田動物園で楽しむ	
③時計観賞	16:00

サイクルポート　繋

現在市役所が行っている自転車の貸し出しを、規模を拡大して実施する。フリンジパーキングからサイクル＆ライドが可能。

まちなか果樹園　紡　纏

いいだランドバンクが中心となり、空き地や低利用駐車場を果樹園として利用する。自然に触れる暮らしを提案。

裏界線沿いの果樹園。街区内の住民の新たなコミュニティ活動の場となる。

まちなかミニ開発　纏

市街地の整備に合わせ、まちなか居住の場を提供する。低層部は商業利用とし、りんご並木周辺に商業集積を形成する。

凡例

緑地	まちなかミニ開発
駐車場	修景建築
ｱﾄﾘｴ	商業・業務
裏界線	サイクルポート
神社	時計台

N　S=1:4000

Project1　駐車場 × 果樹園：「カシチュー」プロジェクト　纏　繋

○空き地・空き家再生ストラテジー

地区内の空地・空家の情報集約・活用を図る「飯田ランドバンク」を設立し、空地・空家の購入から管理まで一元的に行う。それにより、駐車場空間の集約化、緑地化、リノベーションを促し、賑わいをつくると同時に昔ながらの町割りや裏界線のシークエンスを破壊しているヴォイド空間を減らしていく。

○「カシチュー制度」の導入

空き家が増え、街なかでの駐車場化により、市街地での駐車場供給過多となっている。また人口減少・少子高齢化のため将来的に駐車場の需要はさらに減ることが予想される。そこで地権者は駐車場・空き地を飯田ランドバンクに提供することで、固定資産税免除などのインセンティブが与えられる制度。またその提供されたオープンスペースにおける果樹園化や緑地化に対し、助成を受けることが出来るカシチュー制度助成金を設ける。

○「飯田ランドバンク」の主な４つの機能

空き家・空き地情報の集約化
地区内の空き地・空き家情報を集約し、所有者と利用団体とのマッチングを図る。
登録／借地売却 ↑↓ 情報提供／地代
土地・空き家所有者

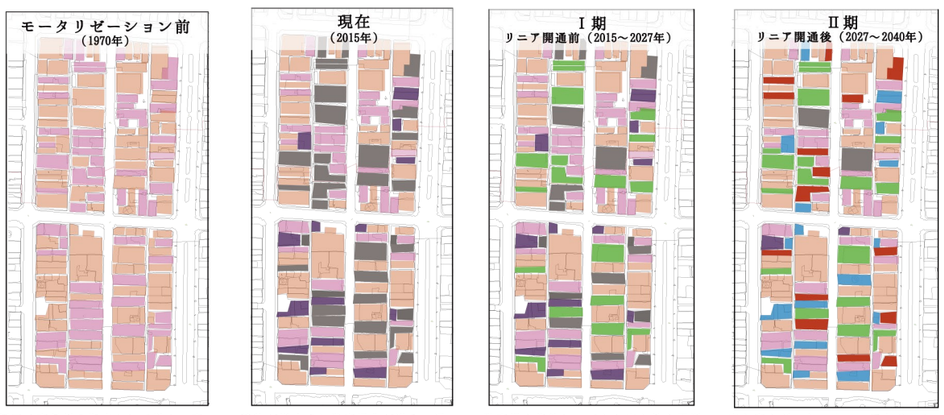
駐車場・空き地のコモンガーデン化
カシチュー制度により提供された駐車場や空き地をカシチュー制度を用いて率先的に果樹園化や緑地化を行う。
土地提供／緑地化 ↑↓ 情報提供／地代／固定資産税免除
駐車場・空き地所有者

コモンガーデンの運営管理
コモンガーデンを一括管理し、果樹園指導者紹介やガーデンのマップ化、情報発信をする。
登録／利用料 ↑↓ 情報提供／助成金／技術支援
コモンガーデン利用者

空き家活用リノベーション支援
移住者等の空き家活用の希望者に対して建設業者等を紹介し、住宅改修や活用の支援を行う。
購入／賃貸 ↑↓ 情報提供／助成金／技術支援
移住希望者

○「カシチュー制度」導入プロセス

凡例：空家／住宅／商業・業務／空地・駐車場／果樹園・緑地／リノベーション住宅／ｱﾄﾘｴ・ｹﾞｽﾄﾊｳｽ

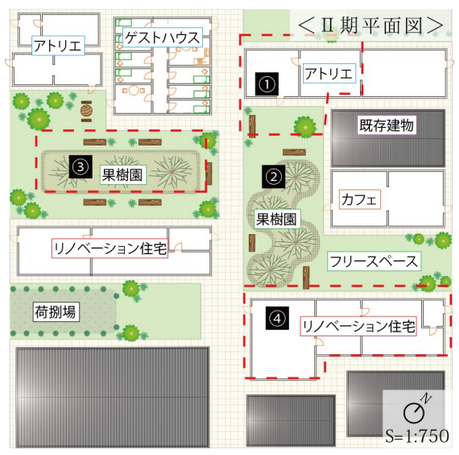


飯田は南信州の拠点として栄え、商業・宿泊業など様々な人たちで賑わった。またこの通りにも隙間なく建物が軒を連ねていた。

建物が撤去され駐車場化が進み、通りとしての賑わいが失われている。それにより飯田の歴史的エレメントである裏界線が消失しかけている。

駐車場を集約し、できた空き地を果樹園・緑地とし、憩いの場を創出する。周囲の住人・商業者でその管理をすることでコミュニティを強化する。

空き家をゲストハウス・アトリエなどに転用し、裏界線に新たな人の流れやコミュニティを生む。またリノベーション住宅としての利用も進む

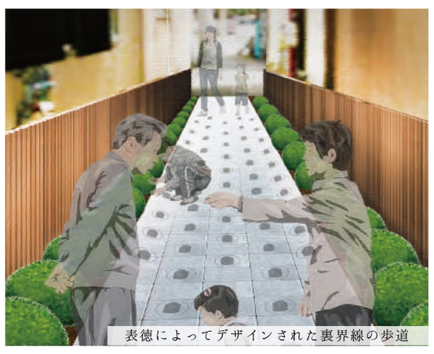


①広場がアトリエの発表の場となる
②カフェが果樹園を借景している
③果樹園はコモンガーデンとして街区内の住人が共同で育てることで、街区のシンボルになり、自分のまちへの愛着を育む場となる
④リノベーション住宅は裏界線側にも出入り口を持つ

Project2　表徳 × サイン計画：飯田サインプロジェクト　紡

飯田大火以前の中心市街地は小京都と呼ばれ、賑わいのある商店や住居が所狭しと並び、魅力的なコミュニティを形成していた。しかし、飯田大火とモータリゼーションの影響により中心市街地の「求心性」を失いつつある。そこで、大火によってもたらされた裏界線を中心としたコミュニティの再編を提案する。

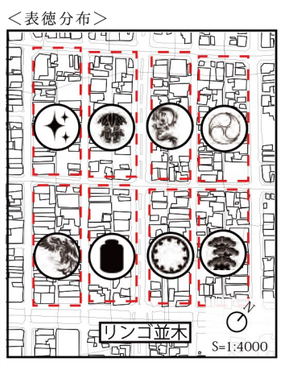
表徳は町名を表す雅名であり、この表徳を修景に用いることで町内コミュニティを視覚化・再認識する。町内ごとに裏界線の歩道に表徳を設うことで、同じ町内ながら裏界線を挟んで背を向けあっていた住人同士が裏界線を共有し合っていることを認識し、さらに活動を共有することでコミュニティを再強化する。



表徳によってデザインされた裏界線の歩道

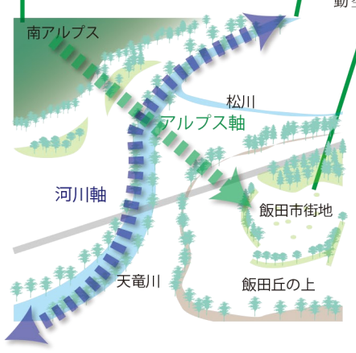
＜修景表徳一覧＞

＜表徳分布＞



Project3　いいだりんごネックレス　繋

四季の感じることのできる緑地帯で市街地を囲みます。



中核地区
ユネスコエコパークに指定されている南アルプスを緑の中核地区と位置づけ、生態系の保全を進める。グリーンツーリズムも行う。

回廊地区
天竜川や松川沿いの緑地空間は南アルプスと飯田市街地を結ぶ生き物の移動空間になる。

拠点地区
飯田市街地に存在する既存の緑地を巻き込んだりんごネックレスは、市街地の中心部に生き物の生息・生育環境を保全紙、分布域を拡大する。

①中央公園（既存）
樹木が少なかった中央公園は、イチョウを象徴的に植えることで、秋には美しい街路となる。

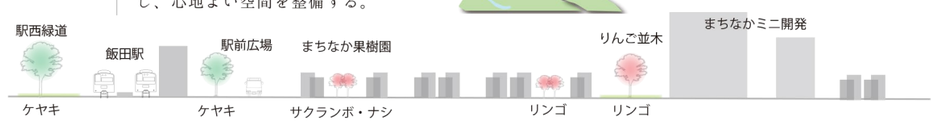
②駅西緑道（新規）
駅西にはケヤキ並木を整備し、魅力のある空間に転換していく。

③王竜寺川緑道（新規）
まちの裏側となってしまった王竜寺川沿いには緑道を整備し、心地よい空間を整備する。

④桜並木（既存）
春に咲き誇る桜並木は、飯田市街地への象徴的なゲートとなる。

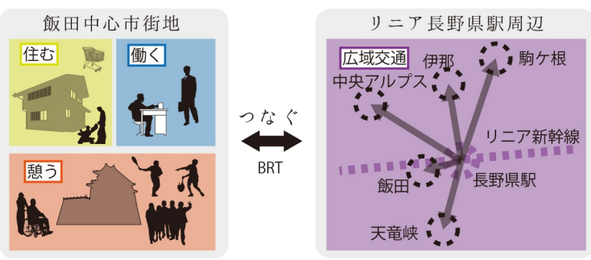
⑤りんご並木（既存）
飯田のシンボルとしてりんご並木は後世に残していく。

⑥扇町公園
飯田のセントラルパーク。中央の四季の広場では、飯田市街に植えられている樹木が一気に楽しめる。



Project4　鉄道軌道上ＢＲＴの提案　繋

○飯田中心市街地とリニア長野県駅の機能分担



●機能分担
リニア長野県駅周辺の機能は大都市圏・世界と長野県各地をつなぐ『広域交通機能』に限定し、中心市街地には『「住む」「働く」「憩う」機能』を配置する。

●飯田中心市街地が果たす役割
リニア長野県駅はロードサイド型の大型ショッピングセンターの集中する三州街道沿いにできる予定であり、よくある郊外の風景が広がっている。大都市圏へのアクセスの良さだけでは、他のリニア駅周辺や郊外との差別化ができず、リニア新幹線開通のポテンシャルを活かせない。人々が飯田に住みたい、行ってみたいと思うためには歴史が育んできた飯田ならではの「住む」・「働く」・「憩う」によって他都市と差別化する必要がある。これらの飯田ならではの環境を世界とつなげるために、飯田駅とリニア長野駅をスムーズにつなげる交通手段の構築が必要である。

●現状課題
飯田中心市街地からリニア長野県駅までの主要動線は三州街道と飯田線と並行通っている道路であるが、いずれも渋滞に悩まされており、地形的制約から道路拡幅も難しく、既存道路を使用した交通手段ではスムーズにつなぐことができない。また、ＪＲ飯田線は約１時間に１本という運行本数のため、新駅をリニア長野県駅付近に作る場合はリニア乗降客のために運行本数を増やす必要があるが、コストに見合う解決策とは言えない。

●鉄道軌道利用したＢＲＴ
鉄道軌道上空間を有効活用するために、飯田駅～リニア長野県駅付近間の鉄道軌道敷を併用軌道と同様の舗装をすることで、鉄道が走らない時間帯をＢＲＴとして利用する。実際にドイツのマンハイム市で存在していた。最低限のインフラ整備で実現可能であるとともに、バスを利用することでイベント時等には容易に増発できるなど、フレキシブルな対応をすることができる。現在日本では、鉄道事業法で鉄道軌道上を自動車車両が通行することは許されていないが、リニア新幹線事業と関連して特認を得る。

鉄道軌道を舗装した道路にバスが進入する様子

アーバンデザインセンターの組織化

公：飯田市　長野県
出資 ↓↑ 業務提携

学：大学　高専　高校
知識・人材 ↓↑ 教育

飯田まちづくりカンパニーは、大火後に飯田に芽生えた「自主・自立」の精神を色濃く反映した都市計画コンサルタントである。これを発展・継承し市民がまちづくりに関わっていくプラットフォームである UDCI（アーバンデザインセンター飯田）を設立する。

アーバンデザインセンター飯田（UDCI）

空地デザイン部門	デベロッパー部門	イベント・文化部門	福祉サービス部門	リニア対応・広域部門
空き家・空き地の調査	飯田駅前開発の推進	歩行者天国イベント実施	高齢者住宅整備	鉄道軌道上 BRT の検討
ランドバンクの運営	りんご並木エリアの整備	飯田文化センターの運営	SOHO/ チャレンジショップ	リニアを活かした広域計画検討
駐車場一体運営	まちなかミニ開発	サテライトキャンパスの誘致		

参加・連携

民：関係主体

農家　地権者　JR 職員　設計コンサル　イベント会社　商工会　NPO 団体　U・I ターン者　バス会社　甲府・中津川市職員　国土交通省